

研究課題名	【Web 会議番号 2019_13】 低アレルゲン化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発
フリガナ	ナカジマ ヨウイチ
代表者名	中島 陽一
所属機関（機関名） （役職名）	藤田医科大学医学部小児科学 講師
本助成金による発表 論文，学会発表	未

研究結果要約

複数の魚に症状をきたす魚アレルギー患者では魚全般の除去を指示される場合もある。魚はビタミンDの主要な供給源であり、魚アレルギー患者が摂取可能な魚種を増やすことは栄養面で重要と考えられる。魚アレルギーは卵や小麦、乳などと比べて自然耐性を獲得しにくいとされており、多魚種にアレルギーがある重症な患者では治療的介入が必要と考えている。

食物アレルギーの治療である経口免疫療法は、有効であるが安全性の問題が解決されていない。より安全な治療をめざし、世界に先がけて独自の酵素処理で低アレルゲン化した魚肉粉末を開発した。魚アレルギー患者7名に使用し安全で有効な結果を得ている。本研究ではこの治療を用いた多施設共同ランダム化プラセボ比較試験を行い、安全で有効な魚アレルギー治療法であることを証明することを目的とした。我々の治療法は、日々の予想外の副反応の危険を恐れながら経口免疫療法を行っている食物アレルギー患者にとって、患者・家族の負担を減らす画期的な方法である。また、アレルゲンの交差性からサケによる治療にて、他の魚の摂取も可能となりうる。

全国の10施設で患者登録がされ、治療が開始されたのが8例で、2例が6か月のランダム化比較試験を終了した。1例は味の好みの問題で治療継続を中止したが、ほか7例は大きな副反応を起こすことなく治療が継続できている。治療効果については比較試験の途中であるためまだ公表できない。